

第8回岡谷新校再編実施計画懇話会

日時：令和8年7月27日（月）

午後6時から午後7時30分

会場：諏訪湖ハイツ

3階 コンベンションホール

次 第

1 開 会

2 県教育委員会挨拶

3 新規構成員紹介

4 会議事項

（1）「第7回岡谷新校再編実施計画懇話会」まとめ

（2）校地検討部会からの報告

（3）学びのイメージ（案）について

（4）意見交換

5 その他

次回の予定

【日時】 調整中

【場所】 調整中

【内容】 学びのイメージ（案）の説明と意見交換

6 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

高校再編推進室

（目的）

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

（会議事項）

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- （1）学校像、教育方針等に関する事
- （2）校地・施設・設備等に関する事
- （3）管理運営等に関する事
- （4）教育内容等に関する事
- （5）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

（構成員）

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

（開催期間）

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

第8回 岡谷新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

	区分	座長◎ 新規	氏名	所属等	役職等	
1	自治体		早出 一真	岡谷市	市長	
2		◎	宮坂 享	岡谷市教育委員会	教育長	
3	産業界		宮坂 晃介	岡谷商工会議所	副会頭	
4			山田 昌義	(有) ニシキ精機	代表取締役社長	
5	学識経験者	新規	飯田 洋市	公立諏訪東京理科大学	教授	
6			岩間 英明	松本大学人間健康学部スポーツ健康学科	教授	欠席
7			坪谷ニュウエル郁子	東京インターナショナルスクール	理事長	欠席
8	地域		胡桃澤 良知	英会話学校イー・トゥー・ゼット	校長	欠席
9			太田 博久	(株) 太田屋	代表取締役社長	欠席
10			笠原 新太郎	笠原書店	代表取締役社長	
11		新規	山口 恭子	諏訪地域振興局	局長	
12	同窓会		山本 美保子	岡谷東高等学校同窓会	会長	
13		新規	共田 武史	岡谷南高等学校同窓会	会長	
14	PTA	新規	藤井 恵美子	岡谷東高等学校PTA 会長	会長	
15		新規	小野 尚志	岡谷南高等学校PTA 会長	会長	
16		新規	小口 翼	諏訪PTA連合会(岡谷市会長)	代表	
17	学校関係者	新規	瀨 敦志	諏訪校長会(岡谷市立川岸小学校長)	代表	
18		新規	矢島 和明	諏訪校長会(下諏訪町立下諏訪中学校長)	代表	
19			佐藤 幸三	花田支援学校	校長	欠席
20	統合対象校 関係者		井刈 謙臣	岡谷東高等学校 生徒代表	生徒代表	
21			大久保 碧依	岡谷東高等学校 生徒代表	生徒代表	
22			川島 幹大	岡谷南高等学校 生徒代表	生徒代表	
23			牛山 柚空	岡谷南高等学校 生徒代表	生徒代表	
24			倉坪 崇之	岡谷東高等学校	校長	
25			中村 龍馬	岡谷東高等学校	教職員	
26		新規	藤澤 幹彦	岡谷南高等学校	校長	
27			中村 和幸	岡谷南高等学校	教職員	

【事務局】

学校名					
岡 谷 東		今井 盛夫(教頭)、中村 龍馬、*近藤 大紀、西澤 久美子			
岡 谷 南		*白鳥 隼人(教頭)、中村 和幸、奥村 達朗、利根川 尚吾			
			所属等	役職等	
長野県教育委員会 事務局		田中 聡	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事	
		望月 ゆかり	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事	
		荻原 洋平	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事	
		宮澤 春菜	高校教育課 高校再編推進室	主事	
		清水 史明	学びの改革支援課	指導主事	

第7回岡谷新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日 時	令和7年11月10日（月） 午後6時～午後7時30分		
場 所	テクノプラザおかや 人材育成研修室		
出 席 （敬称略）	宮坂 享、宮坂 晃介、広瀬 啓雄、岩間 英明、太田 博久、笠原 新太郎、竹花 顕宏 山本 美保子、林 秀徳、小坂 明香、田畑 幸司、小林 俊男、守屋 守、井刈 謙臣、大久保 碧衣 倉坪 崇之、中村 龍馬、藤澤 雅道、中村 和幸（以上19名）		
欠 席 （敬称略）	早出 一真、山田 昌義、坪谷 ニュウエル 郁子、胡桃澤 良知、宮坂 善男 佐藤 幸三、川島 幹大、牛山 柚空（以上8名）		傍聴 4名
事務局	岡谷南高校	藤澤教頭（事務局長）、奥村教諭、利根川教諭	
	岡谷東高校	今井教頭（副事務局長）、能登教諭、西澤教諭	
	県教育委員会	原主幹指導主事、荻原主任指導主事、望月主任指導主事	
当日資料	次第、構成員名簿、第6回懇話会まとめ（案）、学びのイメージ（ポンチ絵）		

会議事項

(1) 第6回岡谷新校再編実施計画懇話会まとめ (2) 校地検討部会からの報告 (3) 学びのイメージ 説明

構成員から出された主な質問・意見(○報告及び説明等、・質問及び意見、→高校再編推進室回答)

会議事項について

(1) 第6回岡谷新校再編実施計画懇話会まとめ

事務局から説明。質問、意見なし。

(2) 校地検討部会からの報告

○校地を決めるにあたっての観点に基づき、校地や学習環境、部活動の現況の確認。

○検討項目の具体的内容として、近隣住民への影響、駐車場施設の確保、通学時の安全性、周辺の学習環境について。

○新しい学びに合わせた学びの場のあり方について意見が出された。

○他の学校や地域との交流の利便性また、周辺の学習環境、安心安全面といった視点も持ち、引き続き検討していく。

【質疑応答】なし

(3) 学びのイメージ 説明

○岡谷新校だからという部分、一つ一つの学びを自分で選んでいく、学びを選びながら積み重ねていく、様々な人との関わりの中で協働的に学ぶ楽しさを知る、これらプロセスを通して、今後の生き方を考えて学べる単位制、こういったものを岡谷らしさと考え、資料のような学びのイメージを考えた。

○育てたい生徒像、目指す学校像の内容についてはこれまで通り。地域の理解を深める学びも検討していきたい。

○下半分の図について大きく変更。1年次共通履修の学びを通して、自分の好きを見つけ、それを起点に、一つ一つ挑戦していく力を様々な人との関わりを通して身につけることをイメージ。またその基礎学力をベースに、一つ一つの学びを単位制として自ら選びながらデザインし、系統立てていくということを2～3年生で行いたい。

○進路実現については、一般入試で国公立大学難関私立大学等を目指す生徒、探究学習の経験を生かした総合型選抜等で進学を目指す生徒、進路先に関わらず学んできた資源を自由自在に扱える生徒とした。

【質疑応答】

・育てたい生徒像の一つ目の「ジブン」をカタカナにする意味を教えてください。

→自分というのをカタカナにしたのは、ひらがなでも漢字でも構わない。自分でデザインしてほしいという意味で、あえてカタカナで示した。

・「地域の資源を生かした学びの連続性」の意味を詳しく教えてください。

→おかやのまちじゅう学園をイメージしている。地域の方々と共に学ぶ願いも込められている。コンパクトシティの岡谷市ならではの様々な交流も期待している。

- ・イメージ図の「主体的な学び、進路実現に向けて身につける確かな学力」を1年のところに下ろしたい。
→検討したい。
- ・「好きを起点に」という部分の「好き」という言葉のニュアンスに違和感がある。
→この場合の「好き」というのは興味関心の方だと捉えている。
→中学生たちがこのパンフレットを見て分かるように、この好きという部分をさらに魅力的な言葉に、ブラッシュアップしていけないか検討する。
- ・岡谷にある様々なものをもう1回洗い出して、それをこの高校の学びにしているかどうか。
- ・この生徒像や学校像を実現するために、現場の先生方はどう感じているのか。
→企業や小学校、中学校との連携は探究の時間の中で可能になると思う（岡谷南）。
→地域の方と協力していくような体制が必要ではないか。また、南高と東高で今やっている内容と、それぞれの良いところを引き継ぎ、授業を大切にして、単位制として魅力ある学校にしたい（岡谷東）。
- ・岡谷南高校の単位制の現状について
→一定の単位数を修得すると卒業できるという形。
- ・基礎的な学力をつけておいた方がいいと考える。
→1年生で基礎学力をしっかりと付け、2・3年生の単位制で自分の興味があるコースに進んでいける形として検討していきたい。
- ・岡谷新校は普通科か。
→普通科同士の再編統合であり、普通科をイメージして進めている。
- ・この学びのイメージは総合学科に近い感じがする。新校と総合学科の違いを教えてほしい。
→総合学科よりは、系統立てて学びのピースをはめていく形を想定している。また皆さんからのご意見いただきながら検討していきたい。

【意見】

- ・中学生に、どういう高校に行きたいのかというような聞き取りはあったのか。大人サイドの考えばかりではなく、子どもたちが何を学びたいかを聞いてみたい。実践して調査する、体験ができるような講座があってもよい。
- ・就職する人も進学する人もどちらも十分な進路保障ができるように考えてほしい。
- ・それぞれの二つの高校の校風や良さを生かしながら、新校に引き継いでほしい。
- ・このパズルのパーツに健康スポーツが入っている。スポーツ学科とか何かスポーツ系の学部があるのかと思う。
- ・イメージの内容としては様々なことが盛り込まれる。このカリキュラムを見ていくと、何となく将来を選択しながら絞り込んでいくように感じられる。例えば目指す学校像の中には挑戦を評価し、試行錯誤するなど、こういったことは必ず将来に向かって本来広がっていくものだと思う。進路に繋げて、広がっていくイメージをもう少し出したらよいのではないか。

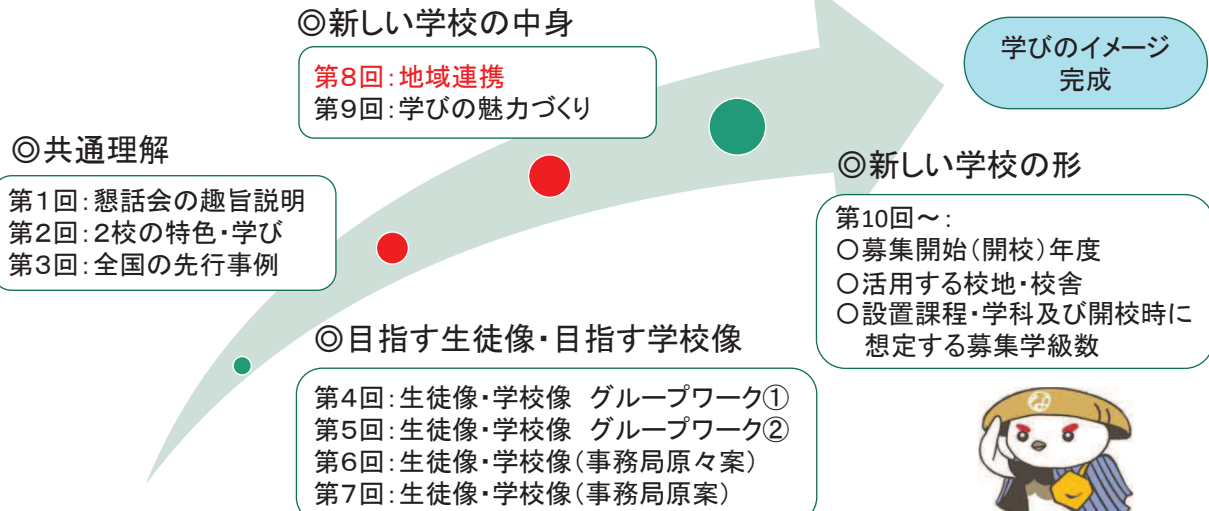
その他

【次回】

日時・会場ともに調整中

学びのイメージ 策定スケジュール（仮）

第9回以降の回数及び内容はあくまでも予定です



学び・みらいを選びとる自立した学び手を育てる高校

育てたい生徒像

- 多彩な視野で物事を見、豊かな発想と確かなジブンをもって自己の生き方をフレキシブルにデザインできるひと
- 様々な人々との関わりを通じてお互いの価値観を認めながら、生涯にわたって学び続けられるひと

目指す学校像

- 多様な学び方を通じ、生徒が自らの生き方・あり方を探しつつ、個々の価値観を認めあえる学校
- 興味や関心を深める探究的な学びの中で、成功だけでなく挑戦を評価できる、生徒が安心して試行錯誤できる学校
- 地域の資源を生かした学びの連続性を通して、他者と協働しながら将来と地域・社会のみらいを創造できる学校



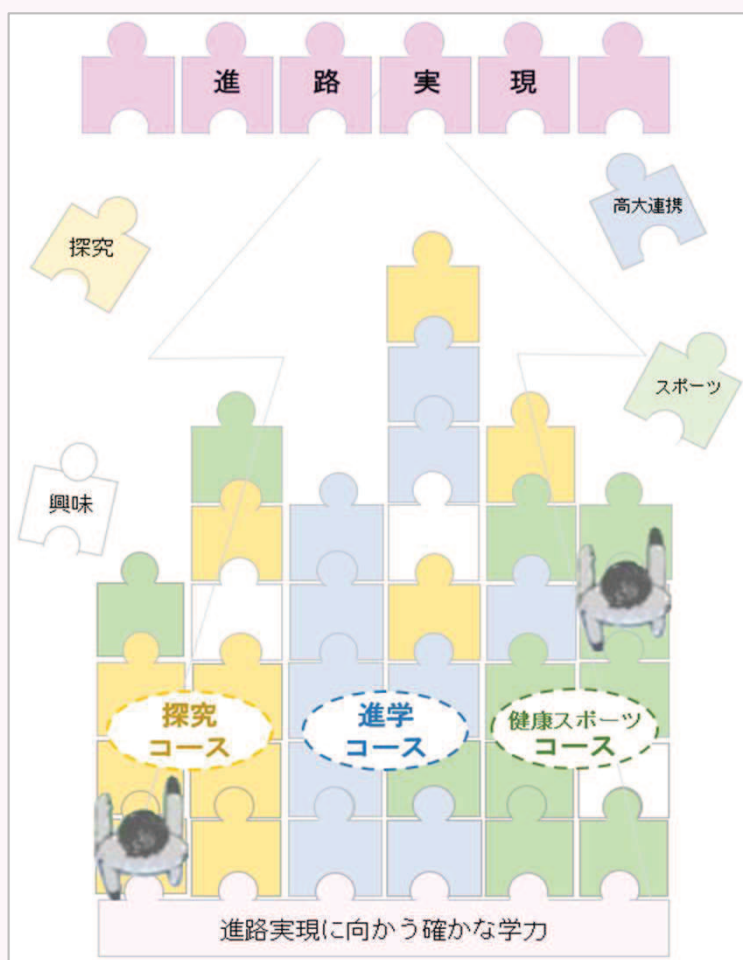
自立した学びからみらいを見据えることのできる 生徒を育てる学校

目指す自分像

- 多彩な物事に対して多面的・多角的な見方をし、豊かな発想と確かな「自分」をもって自己の生き方をフレキシブルにデザインできる人
- 様々な人々との関わりを通じてお互いの価値観を認めながら、生涯にわたって学び続けられる人

目指す学校像

- 全日制の単位制普通科（コース体系）を導入し、多様な学び方を通じて、生徒が自らの生き方・あり方を探しつつ、また個々の価値観を認めあえる学校
- 自らの興味や関心を深めるために、試行錯誤を繰り返し「挑戦」することが評価される探究的な学びが実践できる学校
- 地域の資源を生かした学びの連続性を通して、他者と協働しながら地域・社会の未来を創造できる学校



2・3年

- 単位制により、興味のある分野を選択できる
- 挑戦・経験を重ねながら、生涯にわたって学ぶ楽しさを体感できる
- 生徒同士・学校と地域が連携しながらつくる協働的な学びができる
- 主体的に学び、進路実現に向けて確かな学力を身につけることができる
- 学びの資源を自由自在に扱える力をつけることができる

1年

- 共通した教科の学びを通し、自身の「好き」を発見できる
- 好きを起点に挑戦する基礎力を醸成できる
- 多様な人々とのつながりから、将来の生き方を考えることができる

学びの共創コンソーシアム

各種学校・地域の諸団体・地元企業・・おかやまちじゅう学園等

岡谷新校 再編実施基本計画に係る学校像について（これまでに出力された意見）

＊コンソックは前回出された意見

地域協議会からの意見・提案			再編・整備計画【三次】	第5回懇話会までに出力された意見
育てたい生徒像				○ 自分の強みを生かして、地元を、長野を、日本を、世界をより良くして平和にすることに貢献できる人材。 ○ 大学や地域と連携した探究的な学びにより、人と人の中で自ら考え行動できる、地域から愛され、頼りにされる人物。 ○ 地域を愛し、地域に誇りを持ち、いずれ地元に戻ってきて活躍する生徒を育てたい。地元の良いところをしっかりと伝えることが大切。 ○ 何か一つ目標を持って頑張った経験のある生徒。 ○ 生きる目的、学ぶ目的をしっかりと持ち、それが将来につながり、社会に生きる力を培うことができる生徒。 ○ 自分の夢を求めていく意欲や主体性を持った生徒。 ○ 失敗が怖くて挑戦ができないということよりも、失敗やエラーの繰り返しの中から学び、失敗したからこそ得られたことを自分の経験として、チャレンジを重ねていく生徒。
目指す学校像	○ 地域の子どもたちにはもとより、探究的な学びや分野最先端の学びが可能な、他地域の子どもたちにとっても魅力的な学校 ○ 諏訪地域の歴史・伝統についての学び、地域や世界の課題解決を考える学び、文化芸術分野やスポーツ分野など幅広い学びが可能な学校			○ 生徒が自分のやりたいことを選べ、それぞれの道に進んでいけるような高校。多様な選択ができる学校。 ○ 地域の学校として、地域との結びつきが強く、多様なニーズに応えることのできる学校。 ○ 進学や就職など生徒の希望に沿う科目選択や先生方の厚いサポート体制など多様性のある新校にしてもらいたい。 ○ 生徒の可能性を伸ばすことができる学校、入学後に様々な面でその生徒に合った教育が受けられ、潜在力を大きく伸ばすことができる学校。 ○ 地元や他地域からも選ばれる、偏差値による輪切りで選択されることのない特色ある普通科高校。 ○ 新たな気づきを得られる学校。課題解決の成果を実感できるとともに、更なる課題意識をもって、大学進学するような夢のある高校。 ○ チャレンジを認めていける学校。
学び・カリキュラム	○ 自分の希望がかなえられる多様なニーズに対応した学び ○ 諏訪地域の歴史や伝統文化、地域の産業、豊富な観光資源等の地域の魅力についての学び ○ これからの諏訪地域を支える医療、福祉、行政、教育等の担い手の育成につながる学び			○ 高校生のうちから、主権者として、地域づくり、社会づくりに関わるような教育内容にしてほしい。 ○ 一人ひとりの生徒の個性を引き出し、それを進路選択に繋げていくような教育内容を考えてほしい。 ○ 「グローバルな視点、グローバルな学び」に魅力を感じる。 ○ 両校の良さを活かしながら、英語や情報について深く学べるような学校。 ○ 探究以外にもうひとつ特色がほしい。 ○ いろいろな選択肢を持たせて多様な学びびや、好きなことをとことん追求できる学びをしていくために、単位制の高校がよいのではないか。 ○ 高校の出口も意識しつつ、生徒の自主性を最大限大事にした学校。そのために、社会や地域の小中学校との連携という視点も大事にできるとよい。 ○ 新校にも岡谷東高校で組織されているPTSiに地域を加えてPTSC<Parent Teacher (先生) Student (生徒) Community (地域)>とし、学校運営に参画する組織を作りたい。 ○ 地域資源を用いて地域と連携して学び、それを自分の武器にして進路を実現できるとよい。 ○ 地域の方々を学校に呼び込む、学校から地域に出ていく、これを両輪とした「ひらかれた学校」になるとよい。 地域の方の力も借りていく。
地域連携・シニアム				○ 地域との共生共創プラットフォームの構築や地域連携協働室の活用
学びの環境・その他	○ 主体的な学びによって自己の可能性を広げる ○ 多くの仲間たちと切磋琢磨できる規模の大きな学校 ○ 留学や国際交流を通じて国際感覚を養う学びの機会をより一層取り入れる			○ 障がいのある子どもが共に学ぶ、インクルーシブな学校。 ○ 学びの土壌づくりが大切。 ○ 地元に着着するようにするために、地域のことを教えられる先生・教育が必要。 ○ 教育移住という観点からも考えてみたらどうか。